



日本列島は本年も多くの自然災害に見舞われた。九州や北海道、そして、9月9日には関東を直撃した大型台風により、千葉県を中心に甚大な被害を及ぼした。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。東日本大震災を経験したJR東労組組合員は早速支援活動に動き出している。被災地の一刻も早い復興・復旧を願うものである。

9月11日、安倍首相は第4次安倍再改造内閣を発表した。19人の閣僚の内17人が交代するという大幅な改造を断行(？)した。17人の内13人が初入閣であった。

一方、第2次安倍内閣発足当初から何かと問題発言を繰り返す麻生副総理兼財務大臣と菅官房長官を相変わらず起用した。先の参議院選挙で、改憲勢力を確保できなかった安倍首相だが、「今こそ改憲」とばかりに息巻いている。しかし、世論調査で示される数字は「改憲」に消極的である。

一方、日本経済は「嘘と誤魔化しで誘致したオリンピック」終了までは一定の経済効果もあると言われている。ところが、多くの市民にはオリンピック開幕と同時に訪れるであろう日本経済右肩上がりの終焉がダブって見えるのではないだろうか。そもそも、アベノミクスの破綻に見られるように、安倍内閣の掲げた経済政策では一本の矢も当たることなく日本経済をどん底に突き落としているに過ぎない。

そのような中、世界の政治・経済状況の不安材料は深刻さを増している。アメリカと中国の貿易戦争、北朝鮮の短距離ミサイルの発射実験、イギリスのEU離脱問題、サウジアラビアの石油関連施設への爆破攻撃など予断を許さない状況にある。日本は、隣国の韓国と抜き差しならぬ状態となっている。この様に重要な局面に至っている世界情勢に対して、安倍首相は増税で日本国民から吸い上げた税金を海外に湯水のごとくばらまき、自らの政治生命の延命をほかっているのが現状である。

その状況と相まって、世界は第4次産業革命が進められ、日々私たちの取り巻く環境も変化している。そのような流れの中、JR東日本も様々な経営方針を発信してきている。その一つが、「変革2027」であり、そこから派生する各種効率化施策である。JR東労組は将来への洞察力をもって雇用・安全・働きやすさを守り、創り出さなければならぬ。

## 世界の動きに遅れることなく、働く者の未来を勝ち取ろう

先日、提案されていた「ジョブローション」を受託し、労使確認を行ってきた。同時に賃金制度の変更についても協定化してきた。これらの闘いに対して、「反対しない」「闘っていない」「会社と同じ事しか言わない」など、批判にもならない批判を繰り返している者がいる。しかし、本部は地方本部と連携し、解明要求・基本要素を提出し、団交を積み重ねてきたのである。その過程では、終身雇用や年功型賃金、労働協約などについて変えるものではないなど大きな成果を確認してきている。多くの企業が「リストラ」という名の首切りが断行されている現実を見るときに、この様な確認が行えたことは成果である。また、異動に際して本人の意思確認を行う事や元の職場に戻ってくる運用があることも確認してきた。当然、限界性はあるが現状の組織の総力で確認してきたのである。また、賃金についても会社提案案に対して「政策提言」として全系統におけるキャリアアップを要求してきた。勝ち取ることはできなかったが、会社をして、検討に値すると言わしめたことは、新たな方向性を生み出す可能性を創り上げたということだ。

この様に、厳しい中でも具体的に闘い、労働組合の視点を施策に入れ込みながら、「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保し、施策を担ってきた。我々を取り巻く環境の変化はさまざまある。単に「施策反対」「白紙撤回」を空叫びしていたら、我々の働く場の確保はできない。

新生JR東労組は、あらためてJR東足時時に打ち立てた哲学を学び直し、結集する組合員のための労働運動を、労働組合主義に基づいて進めていく。新生JR東労組の旗の下に再結集を呼びかけよう。

命が進められ、日々私たちの取り巻く環境も変化している。そのような流れの中、JR東日本も様々な経営方針を発信してきている。その一つが、「変革2027」であり、そこから派生する各種効率化施策である。JR東労組は将来への洞察力をもって雇用・安全・働きやすさを守り、創り出さなければならぬ。

### かんり部会第34回定期委員会

## 職場活動を基本とした JR東労組運動を展開しよう!

1. 「血の通った人の心、母の心」で人の痛みを共有し  
安全・健康・ゆとり・働きがいある職場を創ろう!
1. 未来を切り拓くために課題を解決することを通じて  
組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう!
1. 平和・人権・民主主義を優先する社会を目指し  
組合員・家族のためにあらゆる困難に立ち向かい  
平和な社会を実現しよう!



かんり部会は9月1日、本部大会議室にて、第34回定期委員会を開催しました。昨年の活動を振り返り、現実からスタートすべく、向こう一年の取り組みについて議論しました。発言では「分会・支部・地本との連携でレクリエーションを開催し絆を深めてきた」「不当労働行為について抗するたたいをくり出してきた」などの教訓が報告されました。また、転勤や各種施策についての問題点、シニア会員との関わりについてなど意見も出されました。

発言を受けて、改めて掲げたスローガンをともに、職場活動を基本としたJR東労組運動を展開し、この難局を切り拓いていくことを全体で確認しました。

かんり部会は9月1日、本部大会議室にて、第34回定期委員会を開催しました。昨年の活動を振り返り、現実からスタートすべく、向こう一年の取り組みについて議論しました。発言では「分会・支部・地本との連携でレクリエーションを開催し絆を深めてきた」「不当労働行為について抗するたたいをくり出してきた」などの教訓が報告されました。また、転勤や各種施策についての問題点、シニア会員との関わりについてなど意見も出されました。

## 仲間との絆を深め 組織拡大に向けて前進していきます!

9月5日、JR東日本運輸サービス協議会は、サッポロビール千葉ビール園においてバーベキューレクを開催し、86名の仲間が参加しました。

屋外でのバーベキューレクを例年開催していましたが、昨年は雨天により中止になったことを教訓に、今回は屋内でのバーベキューレクを行いました。そして、ビンゴ大会も行い、大いに盛り上がりました。

参加者からは、「他の事業所の仲間と交流できてよかった」「また参加したい」などの感想がありました。また、職場の問題点を話し合い、業務課題を共有することも出来ました。

レクを通じて、JR東日本運輸サービスで働くエルダー組合員と出向組合員間

の交流を深め、仲間との絆、労働組合の必要性を改めて感じることができ、組織強化につなげることができました。JR東日本運輸サービス協議会は、今後も労働条件の向上・職場環境の改善に取り組み、脱退を余儀なくされた仲間の再加入の加入を目標し、組織拡大に向けて前進していきます。



### 申6号

## 「旅行業部門の今後の方向性」に関する申し入れ(その2) (全27項目) 8月22日提出

3月6日に提案を受けて以降、2回の解明交渉と1回の基本交渉を行ってきました。これまで旅行業部門は、旅行業界を取り巻く環境の変化を受け止め、様々な施策を担ってきました。今後新たに顧客接点型拠点へと更なる変化を求められ、JR東日本グループとしてJR東日本管内の観光流動をVTSと共に作り出していかなければなりません。これまでの議論経過を踏まえ、新たな形態での旅行業部門にVTSと共に踏み出すために精力的に議論を行います。

### 申7号

## 「ワンマン運転の拡大について」に関する解明申し入れ (全14項目) 9月13日提出

7月24日に提案を受け、職場の声を集約し、解明申し入れを行いました。現行の短編成(1~2両)においてもワンマン運転に関する課題が解消出来ないとの声もあります。今後、移動の形態が大きく変化しても、安全性・安定性・異常時対応に対する鉄道利用者のニーズは変わるものではありません。組合員・社員、社会からも受け入れられる将来の鉄道輸送のあり方も見据えて議論をつくり出していきます。

### きかく部会定期総会

## 未来を見据えた働き方を仲間と共に考えよう!

きかく部会は9月7日、本部会議室において定期総会を開催しました。12地本6部会が一体となって組織再建に立ち向かうべく、きかく部会も厳しい組織現実に向き合っていることを見逃すことはできません。今後、行き過ぎた人事運用は変化に対応できないリスクがあることを踏まえなくてはなりません。

今年4月から働き方改革関連法が施行され、生産性向上や公平・公正な働き方を後押しする法整備がされましたが、少子高齢化による生産年齢人口の減少、年金受給年齢の先延ばし議論など社会の動きに流されては、将来に対する不安は払拭できません。

きかく部会は、会社経営に一番近いところで働いており、様々な働き方が目指されている中で、未来を見据えていかなければなりません。公募制異動や兼務発令、ジョブローション施策など「選択と集中」の考え方が、JR東日本で働く労働者に向けられていることも見過ごすことはできません。今後、行き過ぎた人事運用は変化に対応できないリスクがあることを踏まえなくてはなりません。

安全・安定輸送は、労使共通の課題であり、健全で活発な議論を行いながら、会社の発展に寄与し続けていくために、きかく部会に結集する仲間組織拡大を目指して1年間奮闘します。



申し入れ項目の詳細等は業務部速報を参照ください。